

ロータリーシーダーを用いた 水稲初冬直播き栽培法



1. 背景・目的

1 経営体当たりの耕作面積は急速に増えており、稲作では省力技術である「高密度播種苗栽培」や「直播栽培」の導入が進んでいます。しかし、春作業の分散により、さらなる作付面積の拡大に対応するには限界があります。

そこで、播種作業を収穫後の初冬期に前倒しで行うことができる新技術「初冬直播き栽培」を確立しました。

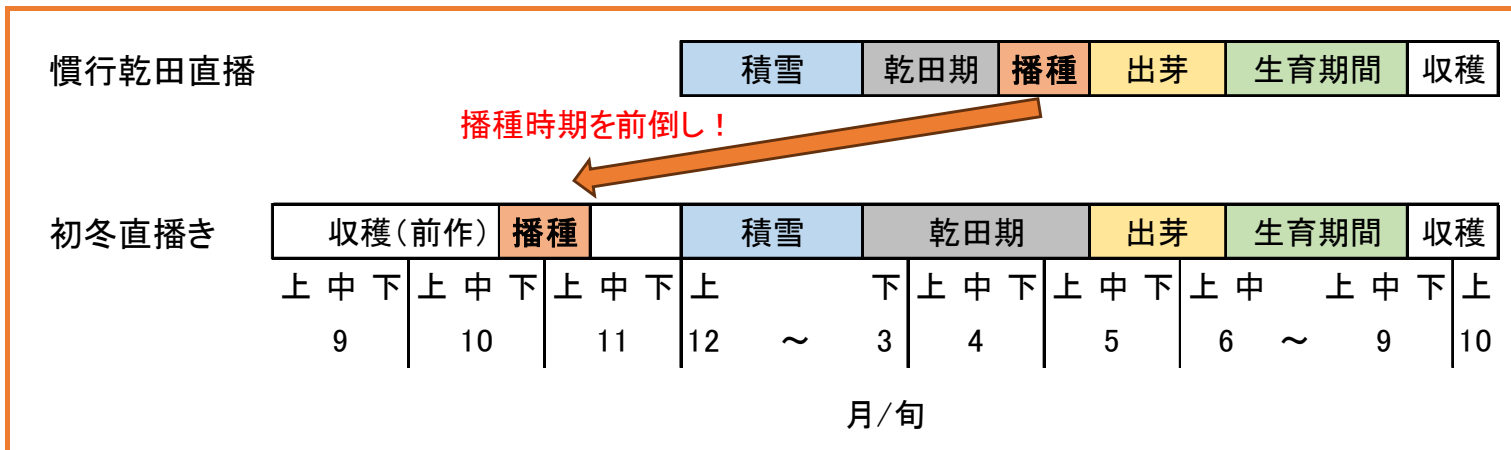
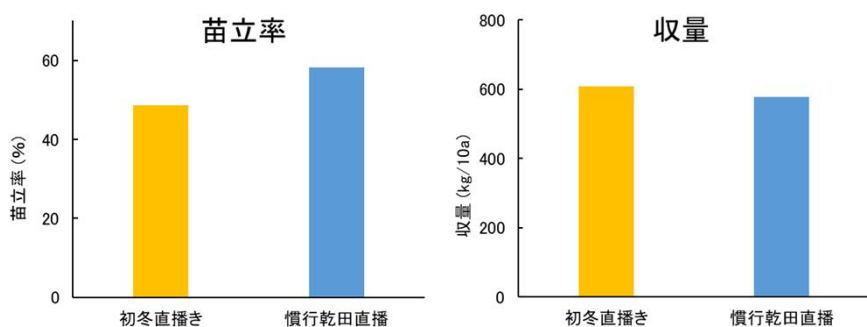


図1 慣行乾田直播栽培と初冬直播き栽培の作業体系の違い



2. 初冬直播き栽培の苗立ちと収量

- ・ 慣行乾田直播栽培に比べて苗立率が低いので、苗立数を確保するためには乾籾で播種量を10~12kg/10a程度とします(図2)。
- ・ 収量と玄米品質は、慣行乾田直播栽培と同等です(図2)。



試験条件

播種時期は、初冬直播き栽培が11月上旬、慣行乾田直播栽培が4月下旬~5月上旬。

10a当たり乾籾播種量は、初冬直播き栽培が10.5kg、慣行乾田直播栽培8.1kg。

図2. 初冬直播き栽培と慣行乾田直播栽培の苗立ち・収量



写真1. 初冬直播き栽培の播種作業、苗立ち、成熟期頃の様子